

山口大学医学部&附属病院から笑顔と情報を発信するコミュニケーションマガジン

山 大 医 学 部 病 院 だ よ り

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

NEWS



3

2023

VOL.259

退任のごあいさつ



山口大学大学院 医学系研究科
器官病態内科学講座 教授
矢野雅文

この度、令和5年3月末日をもちまして山口大学を定年退職致します。
私は、昭和58年に山口大学医学部を卒業後、すぐに第二内科に入局し長年にわたり多くの循環器疾患患者の診療に従事しました。約10年前に器官病態内科学（第二内科）の教授、診療科長を拝命してからも、循環器病、膠原病、腎疾患の診療水準の向上に教員と共に努力してまいりました。その間、附属病院副院長、医療人育成センター長も拝命しました。一方で、優れた恩師、良き先輩・後輩に恵まれ、「心筋Ca2+動態を制御することによる新たな心不全・不整脈の治療開発」にも長年取り組み、多くの研究成果を上げることが出来ました。これらは第二内科の財産であり今後も引き継ぎ後輩たちがさらに発展させてくれることを期待しています。
昨今、高齢化に伴い循環器疾患患者

は増加の一途をたどり、しかも腎臓病や呼吸器・感染症の合併により病態は複雑化しているため、専門性に裏付けされた高度な総合内科的診療の出来る臨床医が強く求められています。現在は、昔と違って診療ガイドラインが分野ごとに充実しており、診療上、必須になっていきます。ただ一方で、あまりにガイドラインに初めから固執すると、病態を正しく認識する能力が損なわれるのではないかと若干危惧いたします。ガイドラインに沿って診療を行うことは医療人として当然の事ですが、時には何故そのような指針（クラス分類）になっているか、立ち止まって論文を読みながら深く考えることも、複雑な病態を呈する患者さんを適切に診療するうえで重要だと思います。研修医、学生の皆さんには是非そのような点にも留意していただき、リサーチマインドをもった優れた臨床医になられることを切に祈念しております。
退職後は、微力ながら臨床医として地域医療に貢献したいと思っています。最後になりますが、在職中は大変お世話になり厚く御礼申し上げます。山口大学医学部、医学部附属病院、職員の皆様のご発展とご健勝を祈念しております。



山口大学大学院 医学系研究科
臨床神経学講座 教授
中森雅之

教授就任のごあいさつ

令和5年1月1日付で臨床神経学講座教授を拝命いたしました中森雅之（なかもり・まさゆき）と申します。着任にあたり、「山大医学部・病院だより」をご覧の皆様にご挨拶申し上げます。

私は京都市で生まれ育ち、大阪大学医学部に入学しました。平成11年に卒業し大阪大学神経内科学講座に入局した後、大阪大学医学部附属病院ならびに関連病院で、脳卒中をはじめとする急性期医療から神経筋難病に対する慢性期診療など、幅広く神経内科診療に携わりました。平成15年より大阪大学大学院医学系研究科にて筋ジストロフィーの研究を開始し博士号を取得した後、4年間米国ロチェスター大学で治療開発研究にも従事しました。帰国後は大阪大学神経内科学講座で、筋ジストロフィーやハンチントン病、パーキンソン病など神経筋難病の病態解明と、

治療法開発に取り組んで参りました。特に、筋強直性ジストロフィーという成人に多い筋ジストロフィーでは、基礎研究で自身が見出した治療薬候補を、医師主導治験まで展開できたことは感慨深く感じています。

脳神経内科は、脳血管障害や頭痛、てんかんなど頻度の高い疾患から、まれな難治性神経筋疾患まで、幅広い領域をカバーしています。急性期脳梗塞に対する血管内治療や神経免疫疾患に対するバイオ医薬品、さらには難治性神経筋疾患に対する核酸医薬など、飛躍的に治療法が進歩している領域でもあります。当講座は、私の着任前から脳神経内科診療・研究で日本トップレベルの優れた実績を上げています。今後ともこうした伝統を活かし、正しい診断のもと最適な治療を実践できるように教室一丸となり、県内関連施設と連携して、より一層診療の充実を目指したいと考えています。また今もって治療法のない神経筋難病においても、一日も早く根本的治療薬を患者さんへ届けられるよう、治療研究などを精力的に進めて参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

山大医学部・病院の旬な話題を発信!

Topics トピックス

Topic 血液脳神経関門先進病態創薬研究講座 竹下幸男研究代表／宇部市長を表敬訪問



地方自治体の重要推進事業に認定されており、ヒト血液脳関門モデルを使った大学発ベンチャーによるビジネス化の計画を進行しています。

竹下研究代表は、「一人の力ではなく、富永助教をはじめとする周りのサポートがあっただけの賞。この受賞を契機に、自分の開発したものを商品化して世の中に広めていくことで、多くの治療薬の誕生に貢献していきたい」と今後の抱負を述べました。

(参考) ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト(JHeC) 2023
<https://healthcare-innohub.go.jp/jhec2023>



令和5年2月8日(水)、血液脳神経関門先進病態創薬研究講座の竹下幸男研究代表(大学院医学系研究科臨床神経学講座助教)が、令和4年10月に経済産業省主催の「ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト(JHeC) 2023」において、アイデアコンテスト部門優秀賞を受賞したことを報告するため、篠田医学部長、病態検査学講座富永助教と共に宇部市長を表敬訪問しました。

JHeCは、ヘルスケア分野の課題解決に挑戦している優れた個人・団体・企業等の表彰を通して社会の認知度を上げ、ビジネスマッチングの促進等を目指すことを目的に2015年度から開催されています。竹下研究代表は、「脳創薬のgame-changerとなるヒト血液脳関門モデルサービスの事業化」についてプレゼンを行い、上位3名に与えられる優秀賞を受賞しました。

竹下研究代表は、独自開発したヒト血液脳関門モデルを使ってこれまで多くの製薬企業と共同研究を行い、視神経脊髄炎の新薬の上市に貢献するなどの成果を上げており、2021年には複数の製薬会社と共同研究コンソーシアムを構築し、共同研究講座を開設しました。現在、JST大学発新産業創出プログラムSTART、やまぐち産業イノベーション補助金、宇部市成長産業協議会等、国・

Topic SDSゲートキーパー養成講座 開催

令和5年2月13日(月)、宇部市総合福祉会館にてSDSゲートキーパー養成講座を開催しました。

山口大学は宇部市と連携して地域の課題を解決するために、医学部に「SDS支援システム開発講座」を設置し、ひきこもりに関わる支援者の人材育成と支援体制の充実を図っています。SDSとは、Social Distancing Syndrome (社会的距離症候群)の略です。

本養成講座は、早期にSDSの当事者やその家族に気づき、思いを傾聴し、苦悩を理解し、適切な支援機関につなげ、見守る「SDSゲートキーパー」の養成および、ひきこもりに関わる支援者のスキルアップのために開催されました。相談支援専門員、福祉なんでも相談員、地域包括支援センター職員など51名が参加しました。

最初にSDS支援システム開発講座山根俊恵教授による講演が行われ、その後相談を受けた際の声のかけ方など参加者による演習が行われました。講座終了後には、SDSゲートキーパーの認定証が全員に手渡されました。



Topic

第5回「人工知能・システム医学による難治性疾患への新たな挑戦」開催

2月11日(土) 山口大学医学部医修館にて、大学院医学系研究科主催第5回シンポジウム「人工知能・システム医学による難治性疾患への新たな挑戦」が開催されました。

大学院医学系研究科では、平成28年10月にシステムバイオインフォマティクス講座を設置するとともに、平成30年4月には、AI技術とシステムバイオロジーを基礎医学と医療とに実践的に導入することを目的として、大学院医学系研究科及び医学部附属病院に「AIシステム医学・医療研究教育センター(AISMEC)」を設置しました。

本邦の医学系研究科では数少ないシステムバイオロジーを専門とする講座を設立したことを契機として、従来から本学で成果を挙げてきた難治性疾患研究を新たな視点から一層加速し、発症機序・病態の解明と診断・治療法開発に繋げるべく、2017年からシンポジウムを開催しています。

当日は、第1部でAISMECの活動、大学院医学系研究科で開発した医用AIとそれを活用した診療支援、そして、昨年から



開始された医用AIシステムと病院情報システムとの連携についての報告が行われました。その後、第2部では他病院のAIシステム連携の取組、AI画像診断の最先端技術、最新のAIモデルについてなど日本を代表する医用AI開発研究者とベンチャー企業技術者による講演が行われました。



山口大学教授
AISMECセンター長

浅井 義之 氏



山口大学教授

石田 博氏



山口大学講師

前川 亮氏



慶應義塾大学教授

陣崎 雅弘氏



大阪大学教授

木戸 尚治氏



SBX Corporation, Director of
Datascience and Engineering
Dr. Sucheendra K. Palaniappan

Topic

国立研究開発法人科学技術振興機構 創発的研究支援事業に 神経・筋難病治療学講座 西原秀昭助教の研究課題が採択

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が今年度募集した創発的研究支援事業に、医学部神経・筋難病治療学講座の西原秀昭助教が申請した研究課題が採択されました。

創発的研究支援事業は、「特定の課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指す「創発的研究」を推進するため、既存の枠組みにとられない自由で挑戦的・融合的な多様な研究を、研究者が研究に専念できる環境を確保しつつ長期的に支援」とされています。また、「創発的研究を促進するため、支援期間中は、異分野を含む多様な研究者同士が相互に触発し、切磋琢磨する「創発の場」を設けることで、破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指す」ものです。

JSTによる2022年度研究提案の募集に対し、2790件の応募があり、263件の研究課題が採択されました。

採択された西原助教の「血液脳関門という新たな診断、治療ターゲットの確立」という課題は、自身の強みであるiPS細胞から血液脳関門(BBB)構成内皮細胞を作製する技術や国際的ネットワークを活用して、これまで解明が遅れていた神経疾患の血液脳関門研究に新たな突破口を開きます。また、病態由来iPS細胞から分化させた細胞を用いて神経免疫・変性疾患等の病態解明や新規創薬研究に挑戦します。

本学では、採択者の創発的研究の遂行にふさわしい適切な研究環境の確保に向け、取り組みを行ってまいります。



YouTube山口大学病院チャンネル
診療紹介や医療情報を配信中!!



企画発行 山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2007
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>